

令和4年度 横浜氷取沢高等学校姉妹校交流（オーストラリア）の取り組み

1. 例年の取り組み

本校は平成27年度より南オーストラリア州のアデレードにあるパラフィールドガーデンズハイスクール（以下 PGHS）と交流を行っている。例年は9月に PGHS 生が来校し、希望生徒宅へのホームステイ、鎌倉での校外学習活動（国際交流委員と一緒に散策）、本校の授業体験（英語授業への参加、国際交流委員が企画した HR 活動への参加、書道体験、部活動体験）をしており、3月に本校生徒（15名程度選抜）が PGHS へ訪問し、同様にホームステイ、学校での授業体験を行っている。令和2年度より、オンラインでの交流を定期的に行っている。

2. 今年度の取り組み

令和4年度についても昨年度に引き続きオンライン交流を行った。オンライン交流も3年目となり、今年については、合計で8回のオンライン交流を行うことができた（令和2年度4回、令和3年度6回）。参加生徒は書類選考、面接を通して組織した1・2学年の16名である。交流当初（第1回～第4回）は、Zoom のアカウントの都合上お互いの学校から順番に一人ずつ自己紹介や学校紹介をしていくという形式で行い、10月からは本校の専用アカウントを利用して1対1～2人の状況で交流を重ねていった。グループよりも個人同士の交流の方が話が弾んでいたようである。

3. オンライン交流の具体的内容

以下が実際のオンライン交流の内容である。

日程

第1回	6月13日	自己紹介
第2回	7月25日	自己紹介
第3回	8月29日	お互いの学校紹介
第4回	9月21日	お互いの学校紹介
第5回	10月17日	文化祭紹介
第6回	10月31日	文化祭紹介
第7回	11月21日	日常会話
第8回	12月6日	自己紹介、日常会話

生徒はそれぞれのトピックについてタブレット端末で英語のスライドを作成しておき、交流日はオンライン上で画面を共有しながら相手へプレゼンテーションを行い、内容に関する質問をし合った。交流校の生徒は日本語を学習している生徒のため、相手校の生徒は日本語でプレゼンテーションを行うこともあった。

4. オーストラリア交流委員の感想（抜粋）

以下は今年度参加した生徒の活動に対する振り返りである。実際に同年代の外国人との交流が英語でのコミュニケーションに対する意欲の向上につながっていることが読み取れる。

生徒 A

この姉妹校交流に参加したての時は正直不安なことが多かったです。しかしこの不安は姉妹校交流を通していくうちに楽しさになりました。具体的に何が楽しかったかという点と普段あまり話すことの少ないであろう外国の方との交流がとても新鮮だったからです。相手の表情の作り方やコミュニケーションの取り方がいつも話している友達とは大きく異なっていてとても楽しい気分になりました。最初は会話がおぼつかなかったのですが回数を重ねていくうちに英語でのコミュニケーションの取り方がわかってきました。

今回の交流は社会に出た後にもとても貴重な経験になると思うので来年も是非参加してみたいと思っています。

生徒 B

全体のオンライン交流で自分の今の英語の実力や違う言語で話す難しさ、ネイティブの発音、話すスピード、英語のいろいろな大変さを知りました。ですが、オーストラリアの生徒さんたちはみんなフレンドリーで私が間違った英語を使っても理解してくれようとしていたり、沢山私に質問をしてくれたりなどがすごく嬉しかったです。なので私も自分が思ったことを素直に相手に伝えることができました。なかなか日本では本場の英語を体験する機会が少ないので、インスタを交換してお話したり、色々な人とコミュニケーションをとることの大切さを知りました。オンライン交流の回数を重ねていくにつれて、1対1での会話が増えていきより自分の意見や自分から相手にもっと説明できるようになったことが嬉しかったです。

これからの課題として、ネイティブの発音を聞き取ることが難しかったので英語のニュースを見るなどして自分で発音し、音に慣れるようになっていきたいです。オーストラリアの特徴だったり、本場の英語を聞けたりすごく楽しい経験をする事ができて良かったです。

5. 今後の展望

参加した生徒の振り返りを分析し、来年度以降の交流がよりお互いの学校の生徒にとって実りあるものとしていきたい。また、担当者間で令和5年度以降の直接訪問の再開についての話し合いを始め、計画を進めている。コロナ禍の中で進めてきたオンライン交流の良い点は活かしつつ、対面での交流を充実させられるように企画したい。